

大学模擬授業(その1)

10月17日(土)、進路学習の一環として、1年生を対象に「外部講師による特別講座」を実施しました。50分2コマで14講座を開講しました。生徒は、希望する講座を2講座選んで講義を受け、学部・学科について学びました。文理選択をする上でも大い参考になりました。



講座名【映画論入門】
鹿児島大学 文学部 人文学科
准教授 中路 武士 先生

「映画論入門」の講座では、なぜ映画について学ぶのか?についてお話を頂きました。映画は今から

ちょうど120年前の1895年12月28日にフランスのパリにてリュミエール兄弟によって一般公開されたのが始まりだそうです。その後は大衆的な娯楽としての「夢の工場」として、また政治家の「プロパガンダ」の道具として20世紀以降の歴史に大きく関わってきました。そんな中で私たちは、様々な映像を正しく理解する「メディアリテラシー」を持つことが求められており、メディアを批判(非難ではない)的にみる力を養う必要があると学びました。



講座名【Love & Peaceの経済学】
鹿児島国際大学 経済学部
教授 西原 誠司 先生

まずはじめに、現在は、国同士が相互依存の関係にあることの説明がありました。次はEUはどのようにしてできたかという内容で、二度の世界大戦が起きた欧州において、二度と戦争が起きないようにするためにどのような取り組みをしたか、その歴史を振り返りました。その後、戦争と恐慌には周期があるという話題に移り、1929年の世界恐慌において、いち早く抜け出したのは日本とドイツであることの説明がありました。最後に第三次世界大戦が起きない理由として、世界各地に工場がある企業の説明があり、現代のグローバル主義は戦争が出来ない経済をつくっているとの話で講座を締めくくりました。



講座名
【文法練習のためのノン・ストップ・トーキング】
都留文科大学 文学部 英文学科
特任准教授 ハウエル エバンズ 先生

流暢な日本語を話される教授ですが、日本語を全く使わずに英語だけの講義でした。生徒は戸惑いも

あるようでしたが、楽しそうに講義を受けていました。都留文科大学はどんな大学なのかを説明されたあと、生徒たちに「アークワーク」をさせながら、英語でのコミュニケーションの取り方について面白おかしく講義をしていただきました。



講座名【折れない心を育てよう】
九州保健福祉大学 社会福祉学部 臨床福祉学科
准教授 田中 陽子 先生

心が疲れてしまったとき、「ストレス」というざっくりとしたくりでなく、何を我慢しているのかその正体を見極めることが大切である。自分の「考え」を整理する作業を誰かに手伝ってもらえるといいということや、今の学びの中で身につく教養は今後、心の疲れに対する基礎体力になること、また、自分自身のことを知っておくことがその回復力に結びつくということなどを教えていただきました。



講座名【自立して生きる子どもを育てる】
宮崎大学 教育文科学部
准教授 椋木 香子 先生

- 教育系分野の講座は、
- (1) 学校は何のためにいくのか?
 - (2) 教育学を学ぶ意義とは?
 - (3) 教師を目指す人へ

の3つの内容について行われました。

- (1) では、アクティブ・ラーニングを使用して授業が進められました。「社会性などを学ぶため」などの意見が多くでした。
- (2) では、新たに「学校は何のためにあるのか」という問題について話し合いました。ルソーの話を用いて講義を進めるなど、生徒たちも大学の講義というものに直に触れ、刺激を受けてました。
- (3) では、教師を目指すためには、「教科指導力」+「好奇心・ボランティア精神・サービス精神」が必要だと述べられました。



講座名【子どもの育ちと「間違い」】
鹿児島女子短期大学 児童教育学科
教授 山元 有一 先生

子どもが描いた絵を教室の黒板で再現し、その絵から子どもの心理を読み取っていききました。絵のタイトルを考えると、生徒は簡潔に答えるのに対し、実際のタイトルは具体的に書かれており、子どもは常に具体的に物事を考えていること、さらに子どもの描く絵は間違えているように見えるが、子どもの発達段階で1度は現れることで、間違いと思われることが実は間違いでなく、指摘をせざるに寛容になることなど日常生活では気づけない子どもの心理を知る貴重な講義となりました。